

公立大学法人岡山県立大学
令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
最小項目別評価

令和3年7月

岡山県地方独立行政法人評価委員会

目

次

1 法人の概要	
(1) 名称	P- 1
(2) 所在地	P- 1
(3) 法人設立の年月日	P- 1
(4) 設立団体	P- 1
(5) 中期目標の期間	P- 1
(6) 目的及び業務	P- 1
(7) 資本金の額	P- 1
(8) 代表者の役職氏名	P- 1
(9) 役員及び教職員の数	P- 1
(10) 組織図	P- 2
(11) 法人が設置運営する大学の概要	P- 3
2 令和2年度に係る業務の実績に関する自己評価結果	
(1) 大項目ごとの評定	P- 4
(2) 総合的な評定	P- 4
(3) 対処すべき課題	P- 5

3 中期計画の各項目の実施状況

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P- 7
(2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	P-14
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-16
3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-18
(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-21
(3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-23
4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-26
(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置	P-28
(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置	P-30
5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-31
(2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-33
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置	P-34

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置	P-36
(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置	P-39
2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置	P-41
(2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置	P-43
3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-44
(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置	P-46
4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置	P-47
(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-48

第4 予算、収支計画及び資金計画	P-49
第5 短期借入金の限度額	P-51
第6 剰余金の使途	P-51
第7 重要な財産の譲渡等に関する計画	P-51
第8 その他規則で定める事項	P-52

4 令和2年度の事業年度評価に係る項目別評価結果表	P-53
---------------------------	------

3 中期計画の各項目の実施状況

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 学士教育

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																			
<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部 保健福祉学部では、地域社会や国際社会における人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる看護、栄養、福祉、教育に関する幅広い知識と技術を修得し、専門分野に関する課題を科学的、論理的思考や分析に基づいて主体的に解決する能力を備えた人材を育成する教育を充実させる。 特に、子ども学の分野では、子どもを取り巻く複雑化する環境を理解し、福祉の視点を有する高度な就学前教育と小学校教育への円滑な接続を推進できる人材育成を目指す。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="123 1182 573 1417"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H25～29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>98.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>95.5</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>79.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H25～29年度平均)	目標	看護師	98.1	100	助産師	100	100	管理栄養士	95.5	96.0	社会福祉士	79.6	80.0	<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部 国家試験の合格率目標の実現に向けて指導の充実を図るとともに、特に新学科への改編に向け、3ポリシーの公表とそれに基づいた教育研究の環境整備を進める。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="618 927 1052 1134"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R2目標	看護師	100	助産師	100	管理栄養士	96.0	社会福祉士	80.0	<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部 各学科においてカリキュラムを通して国家試験の合格率向上に向けた対策を進めた。 新学科発足に向けた3ポリシーの公表、高校生への広報を行うとともに、教職課程および社会福祉士等養成認定に向けた申請を適切に行った。 「吉備の杜」創造戦略プロジェクト科目の内容充実に向けて実施案を作成した。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="1117 1023 1552 1230"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>97.9</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>67.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 継続的な国家試験の合格率向上に向けた対策により、看護師、助産師、管理栄養士の3つが合格率の目標値に到達した。</p>	試験名	R2実績	看護師	100	助産師	100	管理栄養士	97.9	社会福祉士	67.5	4	4	<p>社会福祉士の合格率が前年度より大幅に低下しており、目標達成に向け、問題意識を持って取り組んでほしい。</p>
試験名	現状(H25～29年度平均)	目標																																						
看護師	98.1	100																																						
助産師	100	100																																						
管理栄養士	95.5	96.0																																						
社会福祉士	79.6	80.0																																						
試験名	R2目標																																							
看護師	100																																							
助産師	100																																							
管理栄養士	96.0																																							
社会福祉士	80.0																																							
試験名	R2実績																																							
看護師	100																																							
助産師	100																																							
管理栄養士	97.9																																							
社会福祉士	67.5																																							

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[2]</p> <p>・情報工学部</p> <p>情報工学部では、第4次産業革命の中核をなす情報工学に加え、電子通信工学、機械システム工学、人間工学に関する幅広い知識を活用し、人間・社会・自然との調和を図りながら超スマート社会及び地域産業の持続的発展に貢献できる未来志向の技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[2]</p> <p>・情報工学部</p> <p>カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容の充実を検討するとともに、成長分野を支える情報技術人材の育成のため、全国の大学、岡山県立大学協力会、システムエンジニアリング岡山等と連携する。</p>	<p>[2]</p> <p>・情報工学部</p> <p>文科省 enPiT 事業に関連して、スプリングスクールに延 15 名、岡山大学の授業科目に 9 名、愛媛大学のオンライン PBL に 8 名の学生が参加し、他大学学生との協働により学生のスキルアップにつながった。また、令和 3 年度より岡山大学工学部と協働で実施する科目を 3 学科共通で開講することとした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、OPU 協力会および SEO 協賛で学内合同企業説明会を中止とし、OB 等によるオンライン企業説明会を 6 回開催した。</p> <p>技術者としてのグローバルセンスを磨くための科目として、岡山県立大学協力会及び岡山理科大学と協働で実施する科目を令和 3 年度より 3 学科共通で開講することとした。</p> <p>[評価時の観点]</p> <p>進学率 36.4% と参考指標を上回るとともに、コロナ禍においても、学外と連携した実践的教育を多数行うことができた。</p>	4	4	
<p>[3]</p> <p>・デザイン学部</p> <p>デザイン学部では、人間・社会・自然との調和を目指したデザイン・建築を創造できる人材教育を目指し、学部の基礎的な共通教育に加えて、実学教育を中核とした各分野の専門教育により、地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できるスペシャリストを育成する教育を充実させる。</p> <p>特に、建築分野においては、インテリアから建築設計を中心に、地域計画に至るまで、建築に関わる幅広い知識と高度な技能を修得し、建築家や建築分野の専門家の育成を目指す。</p>	<p>[3]</p> <p>・デザイン学部</p> <p>デザインプロジェクト演習を見直し充実を図るとともに、地域の発展に貢献できる人材をより一層育成していくための新学科への改編に向け、令和3年度入学生に対する3ポリシーを公表する。</p>	<p>[3]</p> <p>・デザイン学部</p> <p>新学科の3ポリシーを公表するとともに、デザインプロジェクト演習を見直し、新カリキュラムで地域の発展に貢献できる人材をより一層育成していくためのプロジェクト系の授業を充実させた。</p> <p>インターンシップ用ホームページを開設して、履修するための資料や情報を提供し、参加の支援と拡大に努めた。また、成果発表についてもホームページで実施した。</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																																												
<p>(参考指標) ([1]~[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修業年限内卒業率 ・ 卒業時及び卒業生に対する調査による教育満足・充実度等 ・ 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="120 416 564 639"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="120 703 564 927"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>6.3</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>30.8</td> <td>32.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>3.9</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>15.5</td> <td>17.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※進学率=進学者数/卒業生数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)の検証に基づくカリキュラム及び実施方法の見直し状況 	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	6.3	8.0	情報工学部	30.8	32.0	デザイン学部	3.9	5.0	学部計	15.5	17.0		<p>(参考指標) ([1]~[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修業年限内卒業率(%) <table border="1" data-bbox="1117 320 1554 520"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>98.6</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>86.4</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>85.9</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>90.7</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="1117 552 1554 751"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.9</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="1117 783 1554 983"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>36.4</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>11.9</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>21.6</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	R2実績	保健福祉学部	98.6	情報工学部	86.4	デザイン学部	85.9	学部計	90.7	学部名	R2実績	保健福祉学部	100	情報工学部	96.9	デザイン学部	85.0	学部計	95.9	学部名	R2実績	保健福祉学部	11.1	情報工学部	36.4	デザイン学部	11.9	学部計	21.6			
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																															
保健福祉学部	97.7	99.0																																																															
情報工学部	96.9	98.0																																																															
デザイン学部	88.1	90.0																																																															
学部計	95.3	97.0																																																															
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																															
保健福祉学部	6.3	8.0																																																															
情報工学部	30.8	32.0																																																															
デザイン学部	3.9	5.0																																																															
学部計	15.5	17.0																																																															
学部名	R2実績																																																																
保健福祉学部	98.6																																																																
情報工学部	86.4																																																																
デザイン学部	85.9																																																																
学部計	90.7																																																																
学部名	R2実績																																																																
保健福祉学部	100																																																																
情報工学部	96.9																																																																
デザイン学部	85.0																																																																
学部計	95.9																																																																
学部名	R2実績																																																																
保健福祉学部	11.1																																																																
情報工学部	36.4																																																																
デザイン学部	11.9																																																																
学部計	21.6																																																																
<p>[4]</p> <p>地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p>	<p>[4]</p> <p>前年度の検証結果を踏まえて充実・改善した副専攻「岡山創生学」科目の実施と検証を継続する。</p>	<p>[4]</p> <p>コロナ禍のため、第1クォーターから第3クォーターまで、副専攻「岡山創生学」の講義科目をオンラインにより開講した。1年生から3年生の演習については、演習内容、受入団体等の見直しを行い、感染予防対策も含めて、受入団体と綿密な調整を行い実施した。地域創生推進士は17名を認定した。</p>	2	2	<p>県内就職率は学生の県外出身者数に関係するが、他県から県立大学に来てくれること自体は評価される。</p>																																																												

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																														
<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="123 352 577 456"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) 	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="622 352 1055 432"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	全学部平均	53.0	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="1131 352 1563 432"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>46.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) 岡山創生学科目の履修者数(人) <table border="1" data-bbox="1144 576 1615 879"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>履修者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会連携要論</td> <td>361</td> </tr> <tr> <td>地域創生演習</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>地域資源論</td> <td>354</td> </tr> <tr> <td>地域再生実践論</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>地域協働演習</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>地域インターンシップ</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>エンジニアリング演習</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点]</p> <p>コロナ禍においても、副専攻「岡山創生学」科目の開講、地域創生推進士の認定は実施できたが、県内就職率は46.6%と目標に届かなかった。</p>	項目	R2実績	全学部平均	46.6	科目名	履修者数	社会連携要論	361	地域創生演習	56	地域資源論	354	地域再生実践論	97	地域協働演習	47	地域インターンシップ	13	エンジニアリング演習	19			
項目	現状(H29年度卒)	目標																																	
全学部平均	51.8	55.0																																	
項目	R2目標																																		
全学部平均	53.0																																		
項目	R2実績																																		
全学部平均	46.6																																		
科目名	履修者数																																		
社会連携要論	361																																		
地域創生演習	56																																		
地域資源論	354																																		
地域再生実践論	97																																		
地域協働演習	47																																		
地域インターンシップ	13																																		
エンジニアリング演習	19																																		
<p>[5]</p> <p>地域社会及びその延長上の国際社会のニーズに即した人材を適切かつ効果的に育成するとともに、教育研究面で本学の特色を伸長させるため、教育研究組織の見直しについて検討する。</p>	<p>[5]</p> <p>令和3年度(2021年度)ポリシーの公表やその後の新学科改編の広報と改編に向けての準備を行うとともに、教育研究組織について継続的に検証し、必要に応じて見直す。</p>	<p>[5]</p> <p>学科改編に伴う学部の3ポリシーの公表とそれに基づいた開講計画策定を完了するとともに、教育の質保証に向けて、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成した。</p> <p>吉備の杜創造戦略プロジェクトの採択に伴い、教養教育重視に向けた大学院の3ポリシーの全面改訂を行い、公表した。</p>	3	3																															

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

イ 大学院教育

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[6] ・保健福祉学研究科 保健福祉学研究科では、保健・医療・福祉分野における問題点を提起してそれを解決し得る高度な研究能力を持つとともに、専門職としての知識・技術を身に付けることにより、少子・超高齢化とグローバル化の進む地域社会において、健康、福祉に関する高度な課題の解決に貢献できる人材を育成する教育を充実させる。</p> <p><u>成果指標</u> ・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="125 911 557 991"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>87.5</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H29年度)	目標	保健師	87.5	90.0	<p>[6] ・保健福祉学研究科 国家試験の合格率目標の実現に向けて指導の充実を図る。グローバル化社会に対応できる人材育成に向けて海外研修を導入する。また実践力を磨くためにインターンシップ導入に向けて検討を進める。</p> <p><u>成果指標</u> ・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="618 815 1057 895"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R2目標	保健師	90.0	<p>[6] ・保健福祉学研究科 保健師国家試験に向けた対策講義をカリキュラムを通して実施するとともに、修了者の進路決定率の確保に関して、就職に向けた英語教育の他、エントリーシート、面接など、希望職種別に個別指導を実践した。 新設した海外研修（保健福祉学研究）は、コロナ禍の影響により、イタリアのダンヌンツィオ大学の講師によるオンライン授業を実施した。 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの新規科目について、地域一体型演習の実施に向けて案を作成した。</p> <p><u>成果指標</u> ・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="1122 1007 1576 1086"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 保健師国家資格合格率、修了者の進路決定率ともに100%と目標を達成した。 国際交流協定校での海外研修（保健福祉学研究）をコロナ禍であってもオンラインで開講することができ、次年度から「吉備の杜」創造戦略プロジェクトによる地域一体型演習を開講する等、カリキュラムの充実も進んでいる。</p>	試験名	R2実績	保健師	100	4	4	
試験名	現状(H29年度)	目標																	
保健師	87.5	90.0																	
試験名	R2目標																		
保健師	90.0																		
試験名	R2実績																		
保健師	100																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[7]</p> <p>・情報系工学研究科</p> <p>情報系工学研究科では、情報技術を活用して、人間・社会・自然との調和を図りながら、グローバルな視野に立って主導的に第4次産業革命を押し進め、超スマート社会及び地域社会の中枢で活躍できる技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[7]</p> <p>・情報系工学研究科</p> <p>カリキュラムの充実を検討するとともに、大学院修了者の進路決定率の確保を図る。</p>	<p>[7]</p> <p>・情報系工学研究科</p> <p>カリキュラムの充実を図るため、授業科目計6科目を新設し、特に社会人基礎力の向上を目的として新設した「高等教育を基盤とした社会人基礎力養成」には12名の履修があり、今後の就職活動に向けた学生の意識を向上させることができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、OPU 協力会および SEO 協賛で学内合同企業説明会を中止とし、OB 等によるオンライン企業説明会を6回開催した。</p>	3	3	
<p>[8]</p> <p>・デザイン学研究科</p> <p>デザイン学研究科では、グローバルな視野と感性を持ち、社会を的確に捉え、時代の変化を洞察することで、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[8]</p> <p>・デザイン学研究科</p> <p>地域や社会に貢献できる人材を育成するよう教育研究組織やカリキュラムの充実を図るために、研究科のあり方について検討する。</p>	<p>[8]</p> <p>・デザイン学研究科</p> <p>定員の確保や学科改編に合わせた専攻の見直しに向けて、ワーキンググループを立ち上げ、研究科改革について検討を進めた。</p> <p>研究科への進学を前提に学部生の研究科科目の履修を認める制度等を検討するとともに、令和4年度から施行する修士課程学位審査基準の改正を行った。</p> <p>[評価時の観点]</p> <p>進路決定率は66.7%と目標を達成できず、定員充足率も低い状況が続いている。定員確保に向けて、更なる取り組みが必要である。</p>	2	2	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																										
<p>成果指標〔6〕～〔8〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（％） <table border="1" data-bbox="123 320 557 427"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>97.8</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)〔6〕～〔8〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の定員充足率 修了時及び修了生に対する調査による教育満足・充実感等 	項目	現状(H29年度)	目標	全研究科平均	97.8	100	<p>成果指標〔6〕～〔8〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（％） <table border="1" data-bbox="620 320 1055 400"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	全研究科平均	100	<p>成果指標〔6〕～〔8〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（％） <table border="1" data-bbox="1117 320 1570 400"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>94.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)〔6〕～〔8〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の定員充足率（％）※収容定員に対する充足率 <table border="1" data-bbox="1117 531 1570 906"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学研究科(博士前期)</td> <td>125.0</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科(博士前期)</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>デザイン学研究科(修士)</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td>保健福祉学研究科(博士後期)</td> <td>213.3</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科(博士後期)</td> <td>44.4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	全研究科平均	94.7	項目	R2実績	保健福祉学研究科(博士前期)	125.0	情報系工学研究科(博士前期)	87.5	デザイン学研究科(修士)	31.3	保健福祉学研究科(博士後期)	213.3	情報系工学研究科(博士後期)	44.4			
項目	現状(H29年度)	目標																													
全研究科平均	97.8	100																													
項目	R2目標																														
全研究科平均	100																														
項目	R2実績																														
全研究科平均	94.7																														
項目	R2実績																														
保健福祉学研究科(博士前期)	125.0																														
情報系工学研究科(博士前期)	87.5																														
デザイン学研究科(修士)	31.3																														
保健福祉学研究科(博士後期)	213.3																														
情報系工学研究科(博士後期)	44.4																														

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見										
<p>[9] 学習成果を上げるため、主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)の導入・推進など教育方法の改善を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (2年目以降に具体数値目標等設定)</p>	<p>[9] 前年度に科目担当教員に行ったアクティブ・ラーニングの現状アンケートの結果をもとに設定した数値目標と現状との差異についてその理由を把握・検討し、アクティブ・ラーニングの推進方法について改善を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H31年度)</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>69.0</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (H31年度)	R2目標	アクティブ・ラーニングの導入率	69.0	80	<p>[9] オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの可能性について分析するとともに、実施状況調査を行った。コロナ禍の影響から、プレゼンテーションやグループワークといった手法の実施率は下がったものの、オンライン授業でも可能な手法が積極的に用いられたことから、アクティブ・ラーニング全体の実施率は昨年度を上回った。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>71.7</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	アクティブ・ラーニングの導入率	71.7	3	3	<p>コロナ禍でこの実績は評価できる。今後、オンラインと対面をうまく両立してほしい。</p>
項目	現状 (H31年度)	R2目標													
アクティブ・ラーニングの導入率	69.0	80													
項目	R2実績														
アクティブ・ラーニングの導入率	71.7														
<p>[10] 学生・教職員の教育研究活動を推進するため、必要な施設・設備等の充実を図り、教育研究環境の改善に努める。</p>	<p>[10] 必要な施設・設備等の充実を図るため、予算編成時期に合わせ設備等の要望調査を行い、整備に努める。</p>	<p>[10] 予算編成時期に設備等の要望調査を実施し、限られた予算の中で緊急性を考慮して、以下の整備を行った。 ・ベッドサイドモニター ・分光光度計 ・薬用冷蔵ショーケース ・助産シミュレーター</p>	3	3											

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[11] 教育プログラム(科目)として、県内の自治体、企業等へのインターンシップを実施し、県内企業等を知る機会を増やすとともに、職業観の醸成など、学生のキャリア形成の支援に努める。なお、インターンシップの実施に当たっては、受入先との連携を密に行うとともに、大学において事前学習及び報告会を実施するなど教育効果が高まるよう努める。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="123 708 571 788"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[11] 教育プログラム(科目)としてのインターンシップの実施及び演習先の開拓等の内容の充実を行う。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="618 485 1052 564"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	参加者数	55	<p>[11] 長期インターンシップの実施については、緊急事態宣言の発出に伴い開始時期が遅れたものの、演習先との調整や学内での事前学習指導体制についての検討を重ね、学生を派遣する形で実施することができた。演習先の開拓では、新たに県の備中県民局が加わった。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="1115 612 1585 702"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内訳) 地域インターンシップ：13人 エンジニアリング演習：19人</p> <p>[評価時の観点] コロナ禍の影響を受けながらも、長期インターンシップの参加者数は昨年度から微増したが、目標には届かなかった。</p>	項目	R2実績	参加者数	32	2	2	
項目	現状(H30年度)	目標																	
参加者数	55	55																	
項目	R2目標																		
参加者数	55																		
項目	R2実績																		
参加者数	32																		

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[12] 新たな入試制度が始まる平成33(2021)年度入試に対応するため学士課程入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の見直しとそれに基づく入学者選抜を実施するとともに、実施結果の点検・評価に基づき改善を図る。 さらに、新高等学校学習指導要領に基づく教育を受けた平成37(2025)年度入学生の受入れに向けて入学者選抜方法やカリキュラムの改善を図る。</p> <p>(参考指標) ・入試実施状況、入学者選抜に係る変更状況</p>	<p>[12] 令和3(2021)年度入試の変更予告を行う。また、令和3年度からの学科改編を反映したアドミッション・ポリシーに基づき、新たな選抜区分に基づいた入学者選抜を行う。</p>	<p>[12] 令和3年度からの学科改編を反映した各学部学科のアドミッション・ポリシーを策定し、公表した。 学科改編に伴う試験実施科目の見直しによる入学者選抜の変更予定をはじめ、入学者選抜要項、令和5年度の入学者選抜の変更点について公表した。 各学科に対して特別入試の面接内容についての調査を行い、特別入試の学力評価方法の改善を目的とした入試結果解析を行った。</p>	3	3															
<p>[13] 加速する18歳人口の減少により大学間競争が激化し、かつ、多様化する入学者選抜に備えて、アドミッション・オフィス機能を整備し、志願者動向等についての調査・分析による入学者選抜等の改善を図るとともに、本学の教育研究の特色・強みを効果的に周知するため、戦略的な入試広報の充実を図り、本学への志願者数を維持する。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H26-H31年度入試)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H26-H31年度入試)	目標	全学部平均	3.2	3.2	<p>[13] アドミッション・オフィス機能を活用し、令和3年度入学者選抜の適正な実施と検証を行う。また、戦略的な入試広報を実施するため、事業及び実施体制の検討を行う。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	全学部平均	3.2	<p>[13] コロナ禍においても感染拡大等の対策を講じながら高校訪問、高校の大学訪問受け入れ、外部への講師派遣、進学ガイダンスへの参加など、積極的に高大連携事業を実施した。 一般入試(前期日程)での志願倍率は、全学部平均で3.1倍と昨年度を上回った。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	全学部平均	3.1	3	3	
項目	現状(H26-H31年度入試)	目標																	
全学部平均	3.2	3.2																	
項目	R2目標																		
全学部平均	3.2																		
項目	R2実績																		
全学部平均	3.1																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[14] 高校生のための大学授業開放や高校への講師派遣、高校の進路指導担当教員との意見交換会など、各種の高大連携事業の方法・内容の改善を図るとともに、効果的な事業の開発、推進を図る。</p> <p>(参考指標) ・高大連携における教育的事業／広報的 事業の実施状況(件数等)</p>	<p>[14] 高大連携窓口を一本化し、高大連携事業のさらなる充実に努める。既存事業については拡充実施の方法について検討を進めるとともに、新規事業を計画する。</p>	<p>[14] アドミッション高大連携センターを設置したことにより、高大連携の窓口を一本化し、効率性を高めるとともに、同センターでの積極的な高校訪問により県内高校との連携強化に向けた取り組みを進めた。</p> <p>進路指導教員との意見交換会、県内高校長有志との高大連携作業部会を開催し、連携事業について議論を進めた結果、情報教育担当高校教員向けの教育、高校生と大学生の地域における探究学習の成果報告会の開催、OPUフォーラムへの高校生参加が決まった。</p> <p>高校生と大学生の地域における探究学習の成果報告会を開催し、オンライン参加2校を含む12校から計60名の高校生が、本学学生45名とともに発表とグループディスカッションを行った。</p> <p>(参考指標) ・高大連携における教育的事業／広報的 事業の実施状況(件数等) 高大連携推進作業部会：1回 進路指導担当教員との意見交換会：2回 高校生と大学生の地域における探究学習の 成果報告会：1回</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[15] 附属図書館において、学生等の多様なニーズに応えるため、学習空間の提供、教育研究・学習に必要な資料の整備・充実、教育研究支援等、図書館サービスの充実に取り組む。</p> <p>(参考指標) ・附属図書館の利用状況及び満足度</p>	<p>[15] 過去の図書館アンケート等の調査分析を受け、更なる充実のため実施可能な取組について検討する。電子書籍導入を検討し電子ジャーナルを見直す。また「選書ツアー」「ブックフェア」「学生希望図書」等の取組を行う。</p>	<p>[15] コロナ禍においても学生が図書館を安心して利用出来るよう、感染症対策を実施した上で開館した。 電子ジャーナルのトライアルやデータベースのリモート用ID準備、電子書籍導入、図書館システムの蔵書検索の機能充実など利便性向上に努めるとともに、学生アンケートの要望を受け、コンセントやパーティションの設置等、学修環境を整備した。 学生目線による選書を実施するブックフェアと選書ツアーのWeb開催により約300冊の図書を購入した他、「学生希望図書」については11件の申し込みがあった。 図書館カフェ、教員の研究成果物や学生課題作品の紹介展示等の取り組みを実施し、図書館の多様な魅力づけを行った。</p>	3	3	
<p>[16] アクティブ・ラーニングに対応する教室や自習環境の充実、学習環境整備や学内の連携体制などを工夫・改善し、学習支援の充実に取り組む。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(2年目以降に具体数値目標等設定)(再掲：9)</p>	<p>[16] 学生の自習状況及び学内の自習環境に対する利用状況・満足度(演習室の延べ利用者数、自習に関するアンケート)等を分析・検証し学習支援の充実に生かしていく。また、前年度に科目担当教員に行ったアクティブ・ラーニングの現状アンケートの結果をもとに設定した数値目標と現状との差異についてその理由を把握・検討し、アクティブ・ラーニングの推進方法について改善を図る。</p>	<p>[16] オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの可能性について分析するとともに、実施状況調査を行った。コロナ禍の影響から、プレゼンテーションやグループワークといった手法の実施率は下がったものの、オンライン授業でも可能な手法が積極的に用いられたことから、アクティブ・ラーニング全体の実施率は昨年度を上回った。 学生の自習に関するアンケートについては、各種アンケートを統合した総合IRの観点の導入に向けて検討中である。</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見										
(参考指標) ・学生の自習状況及び学内の自習環境に対する利用状況・満足度(演習室の延べ利用者数、自習に関するアンケート)	成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (再掲：9) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H31年度)</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>69.0</td> <td>80以上</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (H31年度)	R2目標	アクティブ・ラーニングの導入率	69.0	80以上	成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (再掲：9) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>71.7</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	アクティブ・ラーニングの導入率	71.7			
項目	現状 (H31年度)	R2目標													
アクティブ・ラーニングの導入率	69.0	80以上													
項目	R2実績														
アクティブ・ラーニングの導入率	71.7														
[17] 学修支援体制の充実を図るため、学生毎にアドバイザー教員を決め進路や学業などの相談を受けるアドバイザー制度及び教員が学生の訪問時間帯を設けて研究室で待機し、授業等の疑問点や個人的な悩みなどの相談を受けるオフィスアワーを活用するとともに、学生に授業等の補助を担わせるスチューデント・アシスタント制度の整備に努める。 (参考指標) ・スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(関連：第2-3-(2)生活支援の充実)	[17] アドバイザー面談、オフィスアワーを実施するとともに、スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用に向けた検討を継続して行う。	[17] アドバイザー面談を通常の年2回から3回に増やして実施するとともに、新入生同士の交流を図ることを目的としたアドバイザーミーティングの実施を呼びかける等、コロナ禍による学生生活の不安への対応を図った。 オフィスアワーは各教員がシラバスで公開し、学生からの相談等に対応した。 スチューデント・アシスタント(SA)制度については、学友会組織と連携して、オンラインによる各種相談窓口を定期的に設置して試験的に実施した。 (参考指標) ・アドバイザー面談の実施率：前期 96.2% 後期 93.7%	3	3											

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[18]</p> <p>学生の豊かな人格形成に資するため、大学との連携の下、学生が主体となり学内外のボランティア活動や授業、教育、学内環境改善等に関わる活動である学生FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を推進するなど、学生の主体性を尊重した正課外活動支援体制の整備に努める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の正課外活動への支援状況 ・正課外ボランティア活動への参加状況(参加要請数、参加延学生数) 	<p>[18]</p> <p>2020年度に設置される地域創造戦略センター(仮称)を中心に、学生の積極的なボランティア活動を促すための情報提供や活動支援を行う。学生FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を含む正課外活動については、「キャリア・学生生活支援センター」の「学生生活支援部門」において情報提供や活動支援を行う。(令和2年度から「キャリア・学生生活支援センター」の「正課外・ボランティア支援部門」は、地域創造戦略センター(仮称)と、同センターの「学生生活支援部門」に業務移管する形で発展的に閉鎖する。)</p>	<p>[18]</p> <p>学生のボランティア活動支援として、情報提供、学内のボランティア研修会の開催、消防応援隊の活動支援等を行い、コロナ禍の影響で学生の活動自体は停滞したものの、支援体制の整備を進めることができた。</p> <p>学友会組織による学生FD活動を含む正課外活動は、コロナ禍により各種相談窓口や新入生向けの学生団体紹介イベント等がオンラインでの実施を余儀なくされたため、これらの活動の支援を行った。</p> <p>また、学友会組織と連携して、オンライン授業の改善のための調査を実施した。</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[19] 学生のメンタルサポートのために、学生相談体制の充実を図るとともに、保健室、アドバイザー教員と連携した支援に努める。 また、奨学金制度や授業料減免制度について周知を図り、財源に応じた経済支援を行うほか、国の高等教育段階の教育費負担軽減新制度(平成32(2020)年度開始予定)に備え、必要に応じ準備・適用を行う。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各窓口の利用状況 退学・休学者数 修業年限内卒業率 スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(再掲:17) 減免適用状況(学生数・減免総額) (※平成32(2020)年度から適用となれば国の給付型奨学金の適用状況) 	<p>[19] 学生のメンタルサポートのために、令和元年12月に委嘱した精神科の学校医による教職員向けの研修会や、学生相談室スタッフと精神科学校医との症例検討などを行うとともに、保健室、アドバイザー教員と連携した支援に取り組む他、学修面のサポートのために、アドバイザー面談やオフィスアワーの実施、スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用に向けた検討を進め、さらには、令和2年度から開始される国の高等教育の修学支援新制度を踏まえ、経済的に困窮する学生のための奨学金・授業料減免等の周知を図り、財源に応じた経済支援を行う。</p>	<p>[19] コロナ禍のため、精神科の学校医による研修会は開催できなかったが、アドバイザー面談を通常の年2回から3回に増やして実施するとともに、新入生同士の交流を図ることを目的としたアドバイザーミーティングの実施を呼びかけ、学生相談室では電話相談を行う等、コロナ禍における学生のメンタルサポートに取り組んだ。 学生の成績や休退学者数に対するコロナの影響を調査し、その結果を教職員に公開し、対応に活用した。 修学支援新制度や前期授業料減免・納期限延長に加え、寄附金を活用した給付金支援や寄贈県産米の配付を行った。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各窓口の利用状況(延べ人数) 学生相談室：学生158人、その他1人 保健室：146人 退学・休学者数 退学者：学部14人、大学院7人 休学者：学部25人、大学院10人 修業年限内卒業率 学部：90.7% 大学院(博士前期・修士)：88.4% 大学院(博士後期)：25.0% 授業料減免適用状況 申請件数：182件 減免総額：83,763千円 	4	4	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		<p>[評価時の観点] 通常の支援に加え、コロナ禍における学生の精神的・経済的な不安や困難に対応するため、学生の置かれた状況等の様々な調査とその結果の活用、面談の工夫、各種経済支援等、様々な取り組みを全学的に実施した。</p>			
<p>[20] 障がい学生等が充実した生活を送ることができるよう合理的配慮の充実に努める。</p> <p>(参考指標) ・ 配慮要請件数と合理的配慮提供件数</p>	<p>[20] 2019年度に新設の「キャリア・学生生活支援センター」の「学生生活支援部門」を中心に、学内で障がいを持つ学生をサポートする学生活動団体とも連携し、全学的な対応により障がいを持つ学生に合理的配慮を提供するとともに、学外講師による研修会などを通じて提供内容の充実に向けた検討を行う。</p>	<p>[20] コロナ禍のため、本学での研修会開催に代えて、外部組織が開催したオンラインでの研究会を教職員に周知した。 新入生4名および在学生1名に対する新たな合理的配慮及びオンライン授業により必要となった合理的配慮を実施するとともに、グレーゾーンを含めた障がいを持つ学生のオンライン授業における困難さとそれに対する対応策をまとめ教職員に周知した。 学部共通棟2か所にスロープを設置する等、ハード面での障がい学生対応も進めた。</p> <p>(参考指標) ・ 配慮要請件数：5件 ・ 合理的配慮提供件数：13件</p> <p>[評価時の観点] コロナ禍におけるオンライン中心の授業により、必要性が増しつつも対応の難しい障がい学生への支援について、合理的配慮を含め様々な対応を講じ、適切に実施した。</p>	4	4	<p>障がいを持つ学生が困らないよう対応していることは素晴らしい。</p>

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標に関する目標を達成するためとるべき措置
 (3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																							
<p>[21] これまで学部学科別等、個別に実施していた就職支援について情報を共有するとともに、学生への多様な就職支援策を充実させるため、キャリア形成支援及び学生生活支援の柱となるキャリア・学生生活支援センター(仮称)を設置し、各種支援を充実させる。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・就職満足度(卒業時アンケート) ・卒業生の就職率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	<p>[21] 2019年度に新設の「キャリア・学生生活支援センター」の「就職支援部門」において卒業生の就職先へのアンケートの実施について検討し、県内の事業所に就職した学生の割合や、希望や能力に応じた就職を実現しているかなどを把握し、キャリア・学生生活支援センターの「キャリア形成支援部門」、2020年度に設置される地域創造戦略センター(仮称)など関係部署とも情報共有しながら、学生の就職やキャリア形成支援に向けた各種支援策につなげていく。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	全学部平均	53.0	<p>[21] 就職相談室の人員・場所を刷新する等、整備を進め、ニュースレターによる情報発信を開始した。 就職ガイダンスは全てオンラインでの実施となり、回数も限定された(前年度34件→8件)が、参加者は前年度と同程度(前年度約500名→470名)であった。オンライン、電話等を含む就職相談室への相談者数は約650名、来客企業数145社、求人NAVI掲載数1,050件であった。 学生生活アンケートの結果、就職先情報の入手先としては、コロナ禍の影響を受け、就職支援窓口・就職相談室の貢献度が低下(前年度37.5%→12.4%:4年生)したが、求人NAVI、学科の就職担当教員の貢献度が上昇(前年度30.9%→49.4%:4年生)する等、オンライン等を活用した支援に努めた。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>46.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・卒業生の就職率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.9</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	全学部平均	46.6	学部名	R2実績	保健福祉学部	100	情報工学部	96.9	デザイン学部	85.0	学部計	95.9	2	2	
項目	現状(H29年度卒)	目標																																										
全学部平均	51.8	55.0																																										
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																										
保健福祉学部	97.7	99.0																																										
情報工学部	96.9	98.0																																										
デザイン学部	88.1	90.0																																										
学部計	95.3	97.0																																										
項目	R2目標																																											
全学部平均	53.0																																											
項目	R2実績																																											
全学部平均	46.6																																											
学部名	R2実績																																											
保健福祉学部	100																																											
情報工学部	96.9																																											
デザイン学部	85.0																																											
学部計	95.9																																											

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
		<p>[評価時の観点] コロナ禍の影響を受けつつも、各種就職支援の充実に取り組み、就職率は高い数値を維持したが、県内就職率は46.6%と目標に届かなかった。</p>																	
<p>[22] 企業等へのインターンシップに関する情報提供及び機会創出と併せて、学生のキャリア形成を支援する科目を充実させることで学生の主体的な職業選択を促し、職業意識を醸成させる。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="123 783 557 895"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 ・各種就職ガイダンスの実施状況</p>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[22] 2019年度に新設の「キャリア・学生生活支援センター」の「就職支援部門」や、2020年度に設置される地域創造戦略センター(仮称)を中心に、インターンシップ等の学生が県内企業を知る機会を増やす情報提供、関連する科目等の内容充実、就職ガイダンスの実施及び事業の内容充実に向けた検討を行う。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="618 911 1014 991"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	参加者数	55	<p>[22] 長期インターンシップの実施については、緊急事態宣言の発出に伴い開始時期が遅れたものの、演習先との調整や学内での事前学習指導体制についての検討を重ね、学生を派遣する形で実施することができた。 キャリア教育科目の充実を図り、岡山県立大学協力会からの寄付講座を実施した。 就職ガイダンスは全てオンラインでの実施となり、回数も限定された(前年度34件→8件)が、参加者は前年度と同程度(前年度約500名→470名)であった。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="1115 975 1547 1054"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内訳) 地域インターンシップ：13人 エンジニアリング演習：19人</p> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) 総社市インターンシップ：短期17人 長期 6人 ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 社会を生きる力を学ぶ：25名 企業の組織と活動：23名 ・各種就職ガイダンスの実施状況 実施件数：8件 参加学生数：約470人</p>	項目	R2実績	参加者数	32	2	2	
項目	現状(H30年度)	目標																	
参加者数	55	55																	
項目	R2目標																		
参加者数	55																		
項目	R2実績																		
参加者数	32																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
		<p>[評価時の観点] コロナ禍の影響を受けながらも、長期インターンシップの参加者数は昨年度から微増したが、目標には届かなかった。</p>			
<p>[23] 卒業生に対して同窓会や各種フォーラム等への積極的な参加を呼びかけ、連携を深めることにより、在学生に対する助言・指導等の協力を得られるよう努める。</p> <p>(参考指標) ・県大吉備塾等、卒業生に協力を求める取組状況</p>	<p>[23] 2019年度に新設の「キャリア・学生生活支援センター」の「キャリア形成支援部門」を中心に「県大吉備塾」を実施し、県内外で活躍する本学卒業生を招き、仕事内容や業界情報、在学時の取組などの情報や知識を深め、就職やキャリア形成に対するモチベーションをアップする取組を行うとともに、事業の内容充実に向けた検討を行う。</p>	<p>[23] 県大吉備塾をオンライン形式で6回実施し、うち2回は本学の大学院生を講師とし、進学をテーマにした吉備塾を初めて企画した。参加した学生からはいずれの回も高い評価（満足度、学生生活および就職活動や進路検討における貢献度）が得られた。 各学科のキャリア支援活動を調査し、大学ホームページに掲載した。 卒業生・修了生アンケートについて、実施方法や項目の検討等、令和3年度の実施のための準備を行った。</p> <p>(参考指標) ・県大吉備塾実施状況 実施回数：6回（オンライン）</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見										
<p>[24]</p> <p>学内の競争的研究資金のあり方を見直し、本学の研究活動における特色・強みを明確化するとともに、産業の振興や地域課題の解決の観点も踏まえ、重点的に取り組むべき研究分野を示し、研究力向上及び研究活動の活性化を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の特色や重点研究分野の明確化に関する推進状況 研究活性化の状況 	<p>[24]</p> <p>本学の研究シーズの積極的な発信を通じて地域ニーズの把握に努めるとともに、ニーズに沿った研究活動の活性化に向けて学内競争的資金制度(審査スケジュール、評価方法)の検証・検討を行う。</p>	<p>[24]</p> <p>研究活動の活性化を促すために、外部資金を獲得する意欲を有する教員に優先的に学内競争的資金が分配されるよう、特別研究費の募集・審査方法を変更した。</p> <p>県庁にて本学の研究活動を紹介するパネル展を実施し、研究シーズを県民に向けて発信した。</p> <p>コロナ禍により中断していた、本学の研究や地域貢献活動に関するスタディミーティングを再開し、連携強化を図った。</p>	3	3											
<p>[25]</p> <p>競争的研究資金及び国・民間等の公募型研究助成事業への積極的な申請を奨励するとともに、採択率の向上に努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="120 1209 557 1316"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H25-H30.11月時点の平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>21.5</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p>	項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標	件数	21.5	25	<p>[25]</p> <p>科学技術振興機構や一般助成財団等の研究助成費に関する公募情報を提供して積極的な公募を促すとともに、科学研究費助成事業について、研修会等の支援活動の検証を行い、新規採択率の向上を目指す。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="616 1273 1014 1355"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p>	項目	R2目標	件数	21	<p>[25]</p> <p>公募型研究助成については、公募情報のメール配信や本学ウェブサイトへの掲載により、応募を促した。また、学内競争的資金の交付条件に外部資金への応募実績を課すことで、外部資金の獲得推進を図った。</p> <p>科学研究費の計画書作成研修会はコロナ禍により中止としたが、代替として昨年度の研修会動画の視聴案内を行った。また、外部業者の添削により5名の教員の研究計画書を改善した。</p>	4	4	
項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標													
件数	21.5	25													
項目	R2目標														
件数	21														

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																		
<p>・科学研究費補助金採択率(%)</p> <table border="1" data-bbox="125 293 557 397"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H25 - H30年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>24.9</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定 (関連：第3-2-(1))</p>	項目	現状 (H25 - H30年度平均)	目標	採択率	24.9	27	<p>・科学研究費補助金採択率(%)</p> <table border="1" data-bbox="618 293 1014 368"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>24.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定 (関連：第3-2-(1))</p>	項目	R2目標	採択率	24.0	<p>成果指標</p> <p>・公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件)</p> <table border="1" data-bbox="1115 357 1512 432"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p> <p>・科学研究費補助金採択率(%)</p> <table border="1" data-bbox="1115 564 1512 639"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>28.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 公募型研究助成や科学研究費の獲得支援に取り組み、公募型研究助成事業採択数25件、科研費採択率28.1%と、ともに目標を達成した。</p>	項目	R2実績	件数	25	項目	R2実績	採択率	28.1			
項目	現状 (H25 - H30年度平均)	目標																					
採択率	24.9	27																					
項目	R2目標																						
採択率	24.0																						
項目	R2実績																						
件数	25																						
項目	R2実績																						
採択率	28.1																						

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																					
<p>[26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究を充実する。併せて、共同研究費等の獲得に向けた取組を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="120 754 568 900"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>109.5</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29年度平均)	目標	件数	109.5	130	金額	86,600	100,000	<p>[26] アクティブ・ラボ、各種セミナー等への参加状況と共同研究等の獲得状況の分析結果から、産学連携に係る個々の活動について改善策を検討し、提案を目指す。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="620 786 1032 906"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>80,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	R2目標	件数	115	金額	80,000	<p>[26] コロナ禍の影響を受け、6月中旬までは大半の活動が停止状態となったが、アクティブ・ラボはオンライン形式も取り入れつつ、72件(訪問36件、来学26件、オンライン10件)実施した。</p> <p>外部資金獲得状況を分析したところ、外部資金の獲得やアクティブ・ラボ参加等が一定教員に偏っていたため、間口を広げるための具体策を検討した。また、中小企業との仲介を担う銀行に対して本学シーズをPRした。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="1113 948 1529 1067"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>70,004</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] コロナ禍により産学連携の活動が遅れ、企業からの共同研究費等の獲得が難しい状況であったことから、獲得件数、金額ともに目標を達成できなかった。</p>	項目	R2実績	件数	90	金額	70,004	2	2	
項目	現状(H24-H29年度平均)	目標																								
件数	109.5	130																								
金額	86,600	100,000																								
項目	R2目標																									
件数	115																									
金額	80,000																									
項目	R2実績																									
件数	90																									
金額	70,004																									

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見								
<p>[27] 本学の専門分野の特性を生かして、学部を越えた分野連携による新規性の高い研究開発を積極的に推進する。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況(件数、参加人数、成果等)</p>	<p>[27] 学部を越えた研究分野の連携を推進するとともに、学内競争的資金制度(審査スケジュール、評価方法)の検証・検討を行う。</p>	<p>[27] 今年度採択した重点領域研究(7件)に、代表教員とは異なる学部学科(学外を含む)の研究者が1件あたり平均4.1名参加する等、学部学科を越えた研究分野の連携が進み、前年度の学内競争的資金制度の見直しの効果が確認できた。</p> <p>研究の活性化を促進するために、外部資金獲得に意欲的な教員に優先的に特別研究費が分配されるよう制度を変更した。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況 重点領域研究：7件</p> <table border="1" data-bbox="1120 710 1612 1276"> <thead> <tr> <th>研究課題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒューマンケアリングを中心としたカリキュラムの作成</td> </tr> <tr> <td>高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係</td> </tr> <tr> <td>岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生：キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発</td> </tr> <tr> <td>人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>ものづくりを支援する数値解析法に関する研究</td> </tr> <tr> <td>地域連携を基盤とする生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価を目的とする介入試験</td> </tr> <tr> <td>車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発</td> </tr> </tbody> </table>	研究課題名	ヒューマンケアリングを中心としたカリキュラムの作成	高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係	岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生：キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発	人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	ものづくりを支援する数値解析法に関する研究	地域連携を基盤とする生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価を目的とする介入試験	車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発	3	3	
研究課題名													
ヒューマンケアリングを中心としたカリキュラムの作成													
高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係													
岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生：キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発													
人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術													
ものづくりを支援する数値解析法に関する研究													
地域連携を基盤とする生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価を目的とする介入試験													
車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発													

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[28] 地域の活性化や産業振興に貢献するため、地域ニーズの把握に努め、本学の専門分野における知的資源の提供を行うことにより、地域社会が抱える課題への提言・助言を行うシンクタンクの役割を果たす。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題への研究成果の還元、政策課題への提言・助言の実績 ・OPUフォーラム等における県内企業成果展示件数 ・自治体等からの委員の委嘱件数 ・自治体等への講師派遣件数 	<p>[28] 岡山県立大学協会の活動を軸として、交流会・講習会等を継続して実施する。また、業種説明会を通じて地元企業の魅力を学生に周知する。</p>	<p>[28] コロナ禍の影響により、OPUフォーラム、業種説明会、合同企業説明会の開催を見送ったが、社会人向け講座である岡山県寄附講座「組込みシステム・AI」についてはオンラインで実施した。</p> <p>情報工学部の授業科目「技術者と社会」の中で、岡山県立大学協会の企業による寄附講座を実施することにより、学生の業界への理解を深めつつ地元企業の魅力の発信にも寄与した。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体等からの委員の委嘱件数 岡山県：57件 市町村：57件(うち県内49件) 国・独立行政法人：8件 ・自治体等への講師派遣件数 岡山県：8件 市町村：17件(うち県内15件) 国・独立行政法人：1件 	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																														
<p>[再掲：4] 地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1" data-bbox="120 756 555 861"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) (再掲：4)</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>[再掲：4] 前年度の検証結果を踏まえて充実・改善した副専攻「岡山創生学」科目の実施と検証を継続する。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1" data-bbox="609 689 1039 769"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	全学部平均	53.0	<p>[再掲：4] コロナ禍のため、第1クォーターから第3クォーターまで、副専攻「岡山創生学」の講義科目をオンラインにより開講した。演習科目についても、内容、受入団体等の見直しを行い、感染予防対策も含めて調整のうえ実施した。地域創生推進士は17名を認定した。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1" data-bbox="1097 788 1518 868"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>46.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) ・岡山創生学科目の履修者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="1120 1043 1590 1337"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>履修者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会連携要論</td> <td>361</td> </tr> <tr> <td>地域創生演習</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>地域資源論</td> <td>354</td> </tr> <tr> <td>地域再生実践論</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>地域協働演習</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>地域インターンシップ</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>エンジニアリング演習</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	全学部平均	46.6	科目名	履修者数	社会連携要論	361	地域創生演習	56	地域資源論	354	地域再生実践論	97	地域協働演習	47	地域インターンシップ	13	エンジニアリング演習	19	2	2	
項目	現状(H29年度卒)	目標																																	
全学部平均	51.8	55.0																																	
項目	R2目標																																		
全学部平均	53.0																																		
項目	R2実績																																		
全学部平均	46.6																																		
科目名	履修者数																																		
社会連携要論	361																																		
地域創生演習	56																																		
地域資源論	354																																		
地域再生実践論	97																																		
地域協働演習	47																																		
地域インターンシップ	13																																		
エンジニアリング演習	19																																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		<p>[評価時の観点] コロナ禍においても、副専攻「岡山創生学」科目の開講、地域創生推進士の認定は実施できたが、県内就職率は46.6%と目標に届かなかった。</p>			
<p>[29] SDGs（持続可能な開発目標）の理念を意識した地域連携教育に取り組み、理念の普及と社会貢献活動を推進する。</p> <p>(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数)</p>	<p>[29] 地域のニーズに応じ、地域住民等を対象とする「コミュニティキャンパスおかやま」等の各種講演・講座の開催等、SDGsの理念を意識した地域連携教育を実施する。</p>	<p>[29] 大学コンソーシアム岡山の地域貢献委員会として、各自治体との講師派遣に関する協議を行い、真庭市1件、赤磐市1件の講師派遣を実施した。</p> <p>健康、運動、食育、子育て支援など講座等14事業を実施予定であった「コミュニティキャンパスおかやま」は、コロナ禍の影響により一部の事業は開催中止となったが、感染症対策やオンライン開催への変更も行いつつ開催し、オンラインでの参加者も含めると計560名が参加した。</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[30] 本学の教育研究資源を生かして地域の課題解決に取り組むため、地域との連携による協働事業を推進するとともに、各種講演・講座やワークショップ等のプログラムの充実を図る。</p> <p>(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数) (再掲：29)</p>	<p>[30] 地域のニーズに応じ、地域住民等を対象とする「コミュニティキャンパスおかやま」等の各種講演・講座等を開催する。</p>	<p>[30] 健康、運動、食育、子育て支援など講座等14事業を実施予定であった「コミュニティキャンパスおかやま」は、一部の事業は開催中止となったが、感染症対策やオンライン開催への変更も行いつつ開催し、オンラインでの参加者も含めると計560名が参加した。また、親子交流広場は年間56日開設し、765名の利用があった。</p> <p>研究会活動としては、「コミュニティ家族ケア研究会」、「岡山医療安全研究会」、「エンド・オブ・ライフ・ケア研究会」、「介護福祉研究会」で研修会、講演会をオンラインで開催し、地域の専門職、行政、教育関係者等との情報共有、意見交換等を行った。</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																				
<p>[31] 国際交流の内容を精査し、今後に向けた国際交流協定校等との交流のあり方について検討を進め、必要に応じて見直すなどにより、国際交流協定校等との教育研究における交流の充実を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定締結校との交流実績(教育・研究) (上記実績を踏まえた)国際交流協定校等との交流内容の充実に向けた検討・見直し状況 	<p>[31] 各学部・研究科を主体とした教育・研究のグローバル化につながる活動を推進するとともに、その支援体制を整備する。</p>	<p>[31] コロナ禍の影響により現地での海外研修を始めとした海外大学との交流が難しい状況であったが、台南芸術大学との学術交流協定締結や、オンラインでの海外インターンシップ、セミナー、英会話カフェ等を企画・実施するとともに、今後の活動に向けて、協定内容の精査や各種支援体制の整備を進めた。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定締結校等との交流実績 留学生受入 <table border="1"> <thead> <tr> <th>出身</th> <th>学部生</th> <th>大学院生 博士前期 ・修士</th> <th>大学院生 博士後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>韓国</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>台湾</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ネパール</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 海外研修等の代替事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダンヌンツィオ大学 (イタリア)</td> <td>本学教員・学生のオンライン講義参加</td> </tr> <tr> <td>国立台南芸術大学 (台湾)</td> <td>本学学生のプレゼンテーションに対する講評</td> </tr> <tr> <td>マラッカ技術大学 (マレーシア)</td> <td>本学学生のオンライン講義参加</td> </tr> </tbody> </table>	出身	学部生	大学院生 博士前期 ・修士	大学院生 博士後期	韓国	1	2	0	中国	0	0	2	台湾	0	1	0	インドネシア	0	0	1	ネパール	0	0	1	合計	1	3	4	大学名	内容	ダンヌンツィオ大学 (イタリア)	本学教員・学生のオンライン講義参加	国立台南芸術大学 (台湾)	本学学生のプレゼンテーションに対する講評	マラッカ技術大学 (マレーシア)	本学学生のオンライン講義参加	3	3	
出身	学部生	大学院生 博士前期 ・修士	大学院生 博士後期																																						
韓国	1	2	0																																						
中国	0	0	2																																						
台湾	0	1	0																																						
インドネシア	0	0	1																																						
ネパール	0	0	1																																						
合計	1	3	4																																						
大学名	内容																																								
ダンヌンツィオ大学 (イタリア)	本学教員・学生のオンライン講義参加																																								
国立台南芸術大学 (台湾)	本学学生のプレゼンテーションに対する講評																																								
マラッカ技術大学 (マレーシア)	本学学生のオンライン講義参加																																								

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																						
		<ul style="list-style-type: none"> 海外との交流に係る外部資金獲得 <ul style="list-style-type: none"> JST 日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」：1件 JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)：1件 JASSO 帰国外国人留学生短期研究制度：1件 ※いずれも新型コロナウイルス感染症による渡航制限のため実施できず、採択のみ。 																									
<p>[32] グローバル化に対応したコミュニケーション能力を向上させるため、英語による講義・演習の充実等、主に実践的な英語力の修得を目指す教育を推進する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="123 847 544 954"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H28入学生の1年次→2年次)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>0.42</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において経過年度の平均値で評定(2年目以降にTOEIC上位得点者数等に関する指標を設定)</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語による講義・演習の実施状況 	項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標	伸び幅	0.42	5.0	<p>[32] セメスター制(2学期制)の開講形式について目的に沿った運用を検討するとともに、講義・演習の進め方等について、次年度に向けて必要な改善の可能性について見通しをたてる。また、e-learning教材の評価と見直しについて教員間で協議を重ね、あわせてCALLシステムを含むPC(パソコン)演習室の次期仕様を検討・決定する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="595 975 1014 1054"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="595 1118 1014 1198"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2目標	伸び幅	3.0	項目	R2目標	伸び幅	0	<p>[32] 英語科目はすべてオンライン授業となったが、授業の継続的な改善と、単位要件にTOEICの点数を課したこと等により、令和元年度入学生のTOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅は39.88点と上昇した。一方で550点以上取得者の1年次から2年次の伸び幅は-1.15点とわずかに下降した。</p> <p>R3年度から、より習熟度の高い学生を対象とした「Advanced class」を導入するにあたり、教育効果と学習意欲の向上を図るための検討を行った。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="1088 1007 1507 1086"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>39.88</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="1088 1150 1507 1230"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>-1.15</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2実績	伸び幅	39.88	項目	R2実績	伸び幅	-1.15	3	3	レベルの高いクラスの実在は良い刺激になり、全体として点数が上がることも期待できる。
項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標																									
伸び幅	0.42	5.0																									
項目	R2目標																										
伸び幅	3.0																										
項目	R2目標																										
伸び幅	0																										
項目	R2実績																										
伸び幅	39.88																										
項目	R2実績																										
伸び幅	-1.15																										

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[33] 法人運営に関する共有意識を高めることにより、教職員のより一層の運営への参加を促すとともに、理事長(学長)のリーダーシップの下、内部統制システムの整備・強化により、業務の適正な執行を行う。</p> <p>(参考指標) ・法人運営に関する情報等の公表(及び共有意識の向上に寄与する取組の実施)状況</p>	<p>[33] 理事長(学長)のリーダーシップの下、教職一体となった執行部による大学運営を引き続き推進していく。また、内部統制システムの維持強化のため、各業務におけるリスクの識別及び分析を行う。</p>	<p>[33] 事務局教学業務(学生支援、入学試験・募集活動、募集活動)、広報及び防火・防災体制)に関してリスクの洗い出しを行い、3月にモニタリング(内部監査)を実施し、その結果は良好であった。</p>	3	3	
<p>[34] 全学の運営組織体制を経営的な視点を持って不断に検証し、見直すことにより効率的かつ効果的に大学を運営する。</p> <p>(参考指標) ・運営組織体制の見直し状況</p>	<p>[34] 組織体制等の見直しに伴う人件費など、収支に大きな影響を及ぼす案件について、経営的視点で検証し見直す。</p>	<p>[34] 令和2年度補正予算、令和3年度当初予算の状況を勘案しながら、第3期中期計画期間における収支見通しを随時更新した上で、持続可能で安定的な財政運営が行えるよう財務状況の検証を行った。</p>	3	3	
<p>[35] 教職相互が大学運営上の目標や課題を共有し、教員と職員との協働性の向上を図りながら、課題解決のための教職協働の仕組みづくりと運用を進める。</p> <p>(参考指標) ・学内外の研修への参加状況</p>	<p>[35] 事務局職員の能力向上のため、岡山県立大学職員研修計画(2019年度作成、3か年計画)に基づき、研修を実施する。</p>	<p>[35] コロナ禍の影響を受けつつも、eラーニングセミナーの形式等も採り入れながら、現行の研修計画に基づき学内研修を計3回実施し、延べ233人が受講した。また、岡山県主催のプレステージ研修は中止となったものの、公大協主催の研修はオンラインでの受講が可能となったことから、積極的な参加を促し、延べ36人が受講した。</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		(参考指標) ・学内外の研修への参加状況 学内研修 第1回事務職員研修：10人 ハラスメント全体研修：201人 ハラスメント相談員向け研修：22人 公大協研修 公立大学職員セミナー：1人 ZOOMを利用した会議の運営方法：9人 教学に関する勉強会：(2回延べ)10人 学生のメンタルヘルスケア：3人 会計基礎セミナー：5人 リスク・マネジメント：5人 その他 (内閣府認証NPO法人 学生文化) 若手職員研修会：1人			
[36] 法人職員に求められる能力開発のため、人材育成方針を策定するとともに、専門性・企画立案能力等の向上を目指した個人の業務に関する目標管理・評価手法の見直しを行う。 また、法人の将来を担う優秀な人材確保のため、他大学等での実務経験や専門的な資格を有する者の採用など、長期的な運営体制の構築を念頭に置いた計画的な職員採用に取り組む。 (参考指標) ・法人職員の人材育成方針の作成と推進状況	[36] 優れた人材を確保するため、法人職員の人材育成方針を作成し、学内外に公表する。また、岡山県立大学職員研修計画(2019年度作成、3か年計画)に基づき、研修を実施する。さらに、事務局組織体制の見直しを検討する。	[36] 人材育成については、コロナ禍の影響により、研修会の縮小・中止等、研修計画に一部変更が生じたものの、オンラインも活用し研修への参加を促進した。 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトに対応するため、事務局組織体制を見直し、「吉備の杜」推進室を設置した。	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[37] 学内の情報伝達や情報共有を、ICT環境を活用して機動的かつ効率的に行うことにより、意思決定や業務改善の迅速化を図る。</p> <p>(参考指標) ・ICT環境の整備・活用状況(情報セキュリティ対策の整備状況を含む。)</p>	<p>[37] 本年度に予定されているネットワークシステム更改に合わせて具体的な情報発信・共有についてのルール策定および実装を行い、周知・運用を開始する。</p>	<p>[37] ネットワークシステム更新は入札不調のため令和3年度に延期となったが、情報発信・共有についてのルール案については予定どおり策定、運用を開始するとともに、当該ルールを勘案し、来年度に延期されたネットワークシステム更改の仕様を作成した。</p>	3	3	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[38] 市町村や県内企業等との連携を深めるとともに、設立団体である県との間で、地域課題の共有及び大学の発展と課題解決に向けた連携方策や県の重点施策に対応した大学の活用方策等を協議・調整する連絡協議会の設置等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p> <p>(参考指標) ・COC+の活動状況 ・県との連携状況及び課題共有・検討体制の構築状況</p>	<p>[38] COC+の成果を踏まえ、市町村等との連携、課題解決等に引き続き取り組むとともに、県施策推進連絡会議を活用するなど、県と本学の連携、課題共有を推進する。</p>	<p>[38] 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトにおいて、若者の地元就職と地域の活性化に向けた雇用創出・若者定着に係る連携協力に関する協定書を締結するとともに、「キックオフシンポジウム」を開催し、本格的な取組を開始した。 県幹部に本学教員が研究や地域貢献活動を発表し意見交換を行うスタディミーティングを2回開催し、教員6名が発表した。 県内企業との連携推進に向けて、本学の研究シーズを広く県内に発信するためのパネル展示を県庁県民ホールにて開催した。 大学コンソーシアム岡山と協働し、真庭市から要請のあったイベントに加盟校から講師の派遣を行った。</p>	3	3	
<p>[39] UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)戦略本部を設置し、本学の特色を生かした活動方針等を示したUI戦略を策定・推進することによりブランド力向上を図り、地(知)の拠点として地域に開かれた大学づくりを積極的に進める。</p> <p>(参考指標) ・UI戦略の策定・推進状況</p>	<p>[39] 策定したUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)基本方針により、UI戦略本部において、今後の大学づくりのための有効な方策を推進する。</p>	<p>[39] UI戦略本部の基本方針に基づき、今年度の大学案内のリニューアル、次年度のウェブサイトのリニューアルの再構築の計画等、広報イメージの統一を進めた。 本学の特色を表す取り組みとして「吉備の杜」創造戦略プロジェクトを開始した。</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[40] 雇用形態の多様化など社会変化に対応するため、社会人の学び直しのためのリカレント教育を推進し、内容の充実を図る。</p>	<p>[40] 本学で実現可能なリカレント教育のカリキュラム内容や体制について、ニーズ調査に沿って検討する。</p>	<p>[40] リカレント教育について、他大学の実施状況を調査するとともに、FD研修を実施した。「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの採択により拡充した副専攻を中心に、社会人教育に向けた具体的な手続き、実施方法の検討を開始した。</p> <p>[評価時の観点] 本学におけるリカレント教育について、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの開始に伴い再検討を始めた段階であり、実現に向けた具体策を引き続き検討する必要がある。</p>	2	2	<p>オンラインの活用を検討してほしい。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[再掲：26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究交流を充実するため、共同研究費等の獲得に向けた支援を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29年度平均)	目標	金額	86,600	100,000	<p>[再掲：26] アクティブ・ラボ、各種セミナー等への参加状況と共同研究等の獲得状況の分析結果から、産学連携に係る個々の活動について改善策を検討し、提案を目指す。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>80,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	R2目標	金額	80,000	<p>[再掲：26] コロナ禍の影響を受け、6月中旬までは大半の活動が停止状態となったが、アクティブ・ラボはオンライン形式も取り入れつつ、72件(訪問36件、来学26件、オンライン10件)実施した。 外部資金獲得状況を分析したところ、外部資金の獲得やアクティブ・ラボ参加等が一定教員に偏っていたため、間口を広げるための具体策を検討した。また、中小企業との仲介を担う銀行に対して本学シーズをPRした。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>70,004</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] コロナ禍により産学連携の活動が遅れ、企業からの共同研究費等の獲得が難しい状況であったことから、獲得件数、金額ともに目標を達成できなかった。</p>	項目	R2実績	金額	70,004	2	2	
項目	現状(H24-H29年度平均)	目標																	
金額	86,600	100,000																	
項目	R2目標																		
金額	80,000																		
項目	R2実績																		
金額	70,004																		
<p>[41] 円滑かつ発展的な大学運営のために、外部研究資金等により自己収入増を図る。</p>	<p>[41] 科学研究費助成事業について、研修会等の支援活動の検証を行い、新規採択額の向上を目指す。</p>	<p>[41] 科学研究費の計画書作成研修会はコロナ禍により中止としたが、代替として昨年度の研修会動画の視聴案内を行った。また、外部業者の添削により5名の教員の研究計画書を改善した。</p>	4	4															

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金獲得額(千円) <table border="1" data-bbox="123 323 555 432"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29 年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>84,111</td> <td>85,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標	金額	84,111	85,000	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金獲得額(千円) <table border="1" data-bbox="622 323 1028 403"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>80,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	R2目標	金額	80,000	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金獲得額(千円) <table border="1" data-bbox="1122 323 1554 403"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>90,661</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 科学研究費の獲得支援に取り組み、獲得額が90,661千円と目標を達成した。</p>	項目	R2実績	金額	90,661			
項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標																	
金額	84,111	85,000																	
項目	R2目標																		
金額	80,000																		
項目	R2実績																		
金額	90,661																		

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[42] 各種事業について、費用対効果を踏まえ、縮小・廃止を含めた事業見直しを実施するとともに、重点及び新規事業についても、実施後の効果検証を行い、効果的・効率的な実施に努める。</p> <p>(参考指標) ・事業の見直し状況(運営体制の改善等を含む。)及び重点・新規事業の効果検証の状況</p>	<p>[42] 各種事業について、必要性、実績、費用対効果等の検証を行い、縮小・廃止を含めた事業見直しを行う。</p>	<p>[42] 令和3年度当初予算編成にあたって、固定的経費を除き要求上限率(90%)を設けつつ、事業一つ一つの効果や効率性を見極め、選択と集中による歳出の重点化を進めることで、新規事業を実施し、教育の質の確保を図りながらも、第3期中期計画期間における持続可能で安定的な財政運営を行うために予算規模は対前年度比97.1%に抑えた。</p>	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[43] 教育研究の質の充実を図るとともに、教育研究活動の透明性を高めるため、大学機関別認証評価を見据えた教育研究に関する内部質保証体制を確立し、適切かつ効率的な自己点検・評価を行う。</p> <p>(参考指標) ・大学機関別認証評価に係る自己評価書の作成・公表</p>	<p>[43] 次期認証評価に向けた選定予定の評価機関とその体制に関する情報を収集し、新しく設置する評価室を活用して多角的に検討を行い教学マネジメントの確立を目指す。</p>	<p>[43] 次期認証評価に向けて、学部別外部評価を実施し、外部評価者による評価と意見交換会、改善のための報告書の作成を行った。</p> <p>教学マネジメントの確立については、内部質保証推進会議を設置し、カリキュラムマップ・ツリーの策定、学修成果の質を主観的に検証できるよう大学教育評価アンケートならびに授業改善アンケートの全面改定、教育の質保証に向けたシラバスの修正を行うとともに、アセスメントポリシーの策定を行った。</p> <p>コロナ禍の教育支援のため学生アンケート結果に基づいた改善を行うとともに、オンライン授業マニュアルを作成し、入試、教学、学生生活に関するデータ解析を行う総合IR室を設置した。</p> <p>[評価時の観点] コロナ禍における教育方法（オンライン授業、ハイブリッド授業）及びその学修成果に係るデータを収集する等、教育の質保証のための対策を行いながら、令和5年度の認証評価の受審に向けた教学マネジメントの体制を整備できた。</p>	4	4	<p>アフターコロナの教育方法は大事だ。よく研究してほしい。</p>

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[44]</p> <p>現行及び平成33(2021)年度以降のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)及びアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)の実施状況に関する指標に対応する組織的な教育の自己点検・評価を着実に実施するため、IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動の充実を図る。</p>	<p>[44]</p> <p>新たに加わる文科省のアンケートと各種アンケート同士の連携のあり方について検討する。入学者アンケート、卒業時・修了時アンケート、授業評価アンケート等の分析評価を各部門と連携して行う。</p> <p>その際、アンケートの内容検討と実施、結果の分析と評価(PDCA)により、大学及び大学院の教育へフィードバックする。</p>	<p>[44]</p> <p>学生の満足度調査については前年度の本学独自調査を分析し、本学の現状を把握できた。</p> <p>入学時・在学時・卒業時アンケートについては、統合が実現し、PDCAサイクルに向けて次年度への準備が整った。</p> <p>授業評価アンケートも、授業改善を目的とするものに改定し、DPに関連づけることができた。</p> <p>本学独自の教育満足度アンケートについては、「文科省全国学生調査」とは別に本学のアンケート全体の枠組みの中で位置づけることとした。</p>	3	3	
<p>[45]</p> <p>教員の教育・研究・社会貢献・管理運営の各業務に対する意欲・資質向上のため、教員の個人評価の運用に当たっては、評価後の効果を見極めながら、より効果的な評価制度となるよう指標等の不断の見直しを行う。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員評価の結果公表 	<p>[45]</p> <p>設置する評価室で教員の個人評価制度について教員アンケート等により再評価を行い、評価方法の改善案を検討し、教員活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>[45]</p> <p>新たに設置した評価室において、教員個人評価の改善について、教員にアンケート調査を実施し、その結果に基づき改正方針を定めた。今後、評価方法などの詳細、具体的な施行時期を検討することとした。</p>	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
[46] 教育研究活動や業務運営全般に係る学内審議会・委員会の審議結果に加え、審議過程の情報を積極的に公開する。	[46] 令和2年度の役員会、教育研究審議会、経営審議会、各委員会等に係る議事録を公表する。	[46] 教育研究審議会については11回分、役員会及び経営審議会については4回分をそれぞれ公表した。会議資料は非公開としたが、発言内容を記述したことで審議内容を公表することができた。	3	3	
[47] 地(知)の拠点として地域社会に開かれた大学づくりのため策定するUI戦略に基づき、広報体制を強化するとともに、県のみならず各種広報媒体への掲載協力を得るなど、各種広報ツールを活用し、本学の魅力について、より一層周知を図る。	[47] UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)戦略の基本方針を活用した、各種広報ツールによる広報活動を推進する。また、新規設置する学科に関する広報について、機に応じて対応する。	[47] 大学ウェブサイトや新聞への掲載記事で学科改編をPRした。 令和3年度に発行する大学案内2022について、社会情勢やニーズに合わせ、ページ数を削減しつつ、QRコードによるデジタルツールとの連動を重視する等、大幅なリニューアルを行った。 WEBを活用したイベント開催やSNSを活用したウェブサイトへの誘導により、年間のサイト訪問数が前年度の687,812件から1,130,622件に向上した。	3	3	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[48] 施設の老朽化等の安全管理に関する課題解決のため、必要な改修・修繕を実施するとともに、学生のみならず教職員が安心して学び働ける快適な環境を確保するため、教室・執務室をはじめ、空調や衛生設備の充実、運用時間等の見直しを図る。</p>	<p>[48] 平成30年度に定めた中期修繕計画(令和元年度～令和9年度)に基づき、設備改修(高圧受変電設備、給排水・排水処理施設、空調設備等)を実施するとともに適宜、計画の見直しを行う。</p>	<p>[48] 岡山県から3件の大規模修繕補助金を受けて、高圧受変電設備、給排水・排水処理施設、空調設備の整備を行った。 また、令和3年度の大規模修繕の補助金1件、新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金による空調設備整備1件を内定した。</p>	3	3	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[49] 学内全体での危機管理・安全衛生の強化並びに人権擁護及び法令遵守の意識の共有を図り、研究者倫理遵守や各種ハラスメントなどの人権侵害防止等に努めるとともに、不測の事態に適切に対応できるよう責任体制の明確化と想定訓練の実施などに組織的に取り組む。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49] 危機管理ガイドラインに沿った危機管理対応マニュアルを作成し、試行する。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49] 新型コロナウイルス対策や爆破予告等、緊急性の高い危機に対し、全学として取り組んだ。危機管理対応マニュアル作成の一環として、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を作成した。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルを作成した。</p>	3	3	
<p>[50] 災害や事故等に適切かつ迅速に対応することができるよう、学生や教職員に対する教育や研修・訓練を推進するとともに、安全管理及び災害等を想定した防災体制の充実を図る。</p> <p>成果指標 ・災害対応マニュアルの作成並びに学生及び教職員への周知</p> <p>(参考指標) ・防災に関する研修・訓練の実施状況</p>	<p>[50] 危機管理ガイドラインに対応した災害対応マニュアルを作成し、学生や教職員への周知を図るとともに見直しを行う。</p> <p>成果指標 ・災害対応マニュアルの作成</p>	<p>[50] 危険有害業務、有害物質、廃棄物、不審者対応等の施設・危険物等に関するマニュアルについて、素案を作成した。</p> <p>成果指標 ・災害対応マニュアルの作成 以下の項目について作成した。 ・危険有害業務 ・有害物質 ・廃棄物 ・不審者対応</p> <p>(参考指標) ・防災に関する研修・訓練の実施状況 大地震及びその後の火災を想定した防火・防災訓練を1回実施した。</p>	3	3	

4 令和2年度の事業年度評価に係る項目別評価結果表

項 目	中期計画 項目数 (A)	公立大学法人岡山県立大学 自己評価								岡山県地方独立行政法人評価委員会 評価								
		最小項目別評価の評点内訳					項目数計 (B~E計) (F)	(B~E) 総得点 (G)	評 点 平均値 (G)/(F) (H)	大項目 別評点 (I)	最小項目別評価の評点内訳					(J~M) 総得点 (O)	評 点 平均値 (O)/(N) (P)	大項目 別評価 (Q)
		4点 (B)	3点 (C)	2点 (D)	1点 (E)	4点 (J)					3点 (K)	2点 (L)	1点 (M)					
第2 大学の教育研究等の質の向上	33	6	20	7		33	98	3.0	④	6	20	7		33	98	3.0	④	
1 教育	11	3	5	3		11	33	3.0		3	5	3		11	33	3.0		
(1)教育内容の充実	8	3	3	2		8	25	3.1		3	3	2		8	25	3.1		
(2)教育方法の改善	3		2	1		3	8	2.7			2	1		3	8	2.7		
2 学生の確保	3		3			3	9	3.0			3			3	9	3.0		
3 学生の支援	9	2	5	2		9	27	3.0		2	5	2		9	27	3.0		
(1)学習支援の充実	4		4			4	12	3.0			4			4	12	3.0		
(2)生活支援の充実	2	2				2	8	4.0		2				2	8	4.0		
(3)就職支援の充実	3		1	2		3	7	2.3			1	2		3	7	2.3		
4 研究	5	1	3	1		5	15	3.0		1	3	1		5	15	3.0		
(1)研究の充実	2	1	1			2	7	3.5		1	1			2	7	3.5		
(2)多様な研究活動の展開	2		1	1		2	5	2.5			1	1		2	5	2.5		
(3)研究成果の還元	1		1			1	3	3.0			1			1	3	3.0		
5 地域貢献	3		2	1		3	8	2.7			2	1		3	8	2.7		
(1)地域連携教育の充実	2		1	1		2	5	2.5			1	1		2	5	2.5		
(2)地域貢献活動の充実	1		1			1	3	3.0			1			1	3	3.0		
6 グローバル化	2		2			2	6	3.0			2			2	6	3.0		

項 目	中期計画 項目数 (A)	公立大学法人岡山県立大学 自己評価								岡山県地方独立行政法人評価委員会 評価							
		最小項目別評価の評点内訳					(B~E) 総得点	評 点 平均値 (G)/(F)	大項目 別評点	最小項目別評価の評点内訳					(J~M) 総得点	評 点 平均値 (O)/(N)	大項目 別評価
		4点 (B)	3点 (C)	2点 (D)	1点 (E)	項目数計 (B~E計) (F)	(G)	(H)	(I)	4点 (J)	3点 (K)	2点 (L)	1点 (M)	項目数計 (J~M計) (N)	(O)	(P)	(Q)
第3 業務運営の改善及び効率化等	19	2	15	2		19	57	3.0	④	2	15	2		19	57	3.0	④
1 業務運営の改善及び効率化	8		7	1		8	23	2.9	/		7	1		8	23	2.9	/
(1)機動的かつ効率的な運営体制の構築	5		5			5	15	3.0	/		5			5	15	3.0	/
(2)地域に開かれた大学づくりの推進	3		2	1		3	8	2.7	/		2	1		3	8	2.7	/
2 財務内容の改善	3	1	1	1		3	9	3.0	/	1	1	1		3	9	3.0	/
(1)自己収入の増加	2	1		1		2	6	3.0	/	1		1		2	6	3.0	/
(2)運営経費の見直し	1		1			1	3	3.0	/		1			1	3	3.0	/
3 自己点検及び評価	5	1	4			5	16	3.2	/	1	4			5	16	3.2	/
(1)評価の充実	3	1	2			3	10	3.3	/	1	2			3	10	3.3	/
(2)情報公開の推進	2		2			2	6	3.0	/		2			2	6	3.0	/
4 その他業務運営に関する目標	3		3			3	9	3.0	/		3			3	9	3.0	/
(1)施設及び設備の適切な維持管理	1		1			1	3	3.0	/		1			1	3	3.0	/
(2)安全・安心な教育研究環境の確保	2		2			2	6	3.0	/		2			2	6	3.0	/
合 計	52	8	35	9		52	155	3.0	/	8	35	9		52	155	3.0	/

事業年度評価における評価基準及びその判断目安等

最小項目別評価	評点	評価基準
4	年度計画を十分に達成	
3	年度計画を概ね達成	
2	年度計画をやや未達成	
1	年度計画を未達成	

大項目別評価	評点	評価基準	判断の目安※
⑤	中期計画の進捗は優れて順調		3.1以上
④	中期計画の進捗は順調		2.7以上3.0以下
③	中期計画の進捗は概ね順調		2.3以上2.6以下
②	中期計画の進捗はやや遅れている		1.9以上2.2以下
①	中期計画の進捗は遅れている		1.8以下

※原則、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値(小数点以下第2位四捨五入)で区分する。